平成 26 年度新採用薬剤師ステップアップ研修会　開催報告

平成 26 年 7 月 26（土)、標記研修会を鳥取県中部の倉吉市にある倉吉体育文化会館［教養室 2］において、7 施設 16 名の新採用薬剤師の参加のもと開催いたしました。

１．目的

本研修会は、鳥取県内の病院・診療所に新採用になった薬剤師が採用後約 3 ヶ月経過したところで、これまでの業務あるいは各施設内の研修で学んだことを振り返り、次のステップに進むための夢や方向性について考えていただくために、病院薬剤師を取り巻く環境や業務の変遷、業務に関するトピックスや実施例を当県でご活躍中の先輩方から御紹介いただくもので、毎年、この時期に開催しています。

また、新人の皆様にとっては、東・中・西部と横に 100km 以上もある県内の他支部の新人と初顔合わせをし、日頃の疑問や問題点について情報交換し、横のつながりを構築できるまたとないチャンスになっています。

なお、本年度は、「病棟薬剤業務実施加算」および「チーム医療と薬剤師の専門性」をテーマに行いました。

２．プログラム

当日は、13 時より受付を開始し、以下のプログラムに沿って行いました。

13:30～14:10　基調講演「薬剤師の責務と職能の展開」
　　鳥取県病院薬剤師会会長(鳥取県立厚生病院 薬剤部長)　廣嶋　薫 先生
14:10～14:50　教育講演Ⅰ「病棟薬剤業務について」
　　博愛病院 薬剤部長　角　道雄 先生
14:50～15:20　休憩
15:20～16:00　教育講演Ⅱ「チーム医療と薬剤師の専門性について」
　　鳥取赤十字病院 薬剤部長　國森 公明 先生
16:00～17:00　小グループ討論（ＳＧＤ）: 受講者を 2 グループに分け、下記テーマで
　　グループ１）認定・専門薬剤師制度の必要性が認知されていないのは？
　　グループ２）地方の病院に就職希望する新人薬剤師が少ないのは？
17:00　　閉会

３．概略

基調講演 : 初めに、廣嶋会長より「あなたは、なぜ病院薬剤師になろうと思いましたか？」との問いかけがなされ、「身内が医療従事者だった」、「地元で募集の多い職業の一つが薬剤師だった」などと答えるうちに徐々に参加者の緊張が解け、静まりかえっていた会場から

笑い声が出るようになってきました。

講演では、病院薬剤師の院内における役割、特に医薬品の安全管理担当者としての役割について様々な日常業務を例に挙げて解説がなされ、薬物治療における薬剤師業務の重要性について再確認しました。続いて、薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務というテーマでそれぞれの業務の定義と相補性について解説があり、医師等との協働（チーム医療）における薬剤師の役割について理解を深めることが出来ました。

また、これからの病院薬剤師に期待されること、として医療の質向上や国民の健康推進に資するためには「薬物治療に対しては薬剤師が全責任を持つ」という認識で臨む必要があることを説かれ、最後に、「なくてはならない薬剤師を目指して・・・」というテーマで、「顔の見える薬剤師」から「存在感のある薬剤師」「医療において不可欠な存在」になるためには、患者のために何をしなければならないか？を常に考え、日々、研鑽を積んで医療人としての「夢」や「目標」を持って業務にあたって欲しい、とエールを送られました。

廣嶋先生による基調講演

教育講演Ⅰ：角先生からは、「病棟薬剤業務について」と題して、既に病棟薬剤業務実施加算を認められている施設の立場から、業務の実際について詳細な講演をいただきました。初めに、従来、服薬指導を中心にやってきた「薬剤管理指導業務」と加算対象となる「病棟薬剤業務」の区分と実際の業務で重複する部分について、実例を挙げながら解りやすく解説がなされました。続いて、病棟薬剤業務実施の流れや実施記録（日誌）のつけ方など詳細な説明がなされ、個々の入院患者に対する薬剤師の関わりや他の医療者への働きかけなど薬物治療全般における薬剤師の役割について理解を深めることが出来ました。

中でも、持参薬の確認や患者情報に基づいた入院中の服薬計画の提案、服薬指導への反

映のコツなど具体的な内容を紹介されたところでは、近い将来、参加者自身も行う業務であるためか、参加者全員がメモを取りながら真剣な表情で聴講しておられました。

教育講演Ⅱ：國森先生には、「チーム医療と薬剤師の専門性について」と題して講演いただきました。國森先生はこれまで、様々な医療チームの中心的存在として活躍してこられただけあり、「チーム医療において求められる薬剤師像」と「薬剤師が求められる専門性」を明示された上で、薬剤師の認定制度および現在、取得可能な認定・専門資格について、それぞれの特徴や取得の難易度、医療現場での珍重度も含めて解りやすく紹介されました。

中でも、「楽に重宝される専門を持つのは！」というお話しでは、目標とする資格の選び方、取得に向けた実績づくりの手法を面白おかしく紹介され、新採用者だけに聴かせるのは惜しい内容と思われました。また、病棟薬剤師業務の魅力について他の医療職との関わり（協働）を中心に解説がなされ、チーム医療に参画すること自体が薬剤師の能力開発にも繋がるのだという実感を持つことが出来ました。

最後には、「入局後５年間をどう過ごすか？」で真に社会の求める薬剤師となるためには、日々の研鑽、特に最初のスタートダッシュが重要であることを説かれ、次の世代をになう新人薬剤師への期待も込めて、激励いただきました。

角先生御講演

國森先生御講演

小グループ討論（ＳＧＤ）：講演に続いて、参加者を２つの小グループに分け、KJ 法と二次元展開法を利用して、グループ 1 には「認定・専門薬剤師制度の必要性が認知されていないのは？」、グループ 2 には「地方の病院に就職希望する新人薬剤師が少ないのは？」

のテーマでディスカッション（ＳＧＤ）してもらい、その結果を発表してもらったところ、

「他職種や患者さんに見える化されていないので認定・専門の必要性が理解されていない」、「大学で医療現場のニーズに則した教育が行われていないため，認定・専門の必要性を知らなかった」、「病院薬剤師には魅力を感じるが，地方の生活環境に魅力がない」、「都会でないと経験できないような症例や専門的な研修を地方でも学べるようにして欲しい」、「調剤薬局に比して給与水準が低い」など主催者側の期待以上の回答がなされ、明るい未来を感じさせられました。

なお、ディスカッションが盛り上がり、主催者側のコントロールが不十分だったため、予定時間を超過してしまいました。

ＫＪ法の様子

成果発表の様子

最後は、会長による総括後、全員で集合写真を取って解散しました。
（当日は日本で５番目に気温が高かった中，熱いディスカッションお疲れ様でした。）

集合写真

４．謝辞

御講演いただきました先生方ならびに事務局の皆様ありがとうございました。

（文責：学術・生涯研修委員会委員長　森田俊博）